

情報理工学系研究科

I	教育水準	教育 26-2
II	質の向上度	教育 26-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、理学と工学の融合が可能な専攻構成となっており、応用分野も幅広い教育が可能な編成である。教員構成も他機関より広く多様な人材を集め、幅広い知識に基づく応用力の高い人材の育成を可能にする教員を擁している。また、国際センターの設立による国際性の推進が図られる組織編成となっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、研究科、専攻、教員の各レベルでの教育改善の取組を行い、懇談会、アンケート実施等による学生の意見を集約するシステムが機能している。また、各種教育プログラムの実施、アドバイザー教員の制度化、国際センターの設置等教育強化体制が整備されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、研究指導を教育の中心に置き、OJTによる最先端分野の修得を可能にするカリキュラム編成がなされている。また、基礎、応用のバランスも良く、体系化された履修プロセスが確立されているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、多様な学生の要請に対応できるシステムが構築されており、国内外の大学、研究機関との実質的な連携、インターンシップも行われている。修業年数の柔軟化等社会の要請にも対応しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結

果、教育内容は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、研究室単位の研究指導のウェイトが大きいがセカンドオピニオンを得るアドバイザー教員制度、専攻単位の輪講等幅広い指導を受けることのできる制度を設けており、ワークショップ、実践教育プログラムにより応用力を伸ばす指導方法が採られているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、研究指導中心の教育体系であることから主体的な学習は自然と促されるとともに、奨学金、ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) への採用等の経済的支援及び顕彰は学習へのモチベーションを上げる役割を果たしているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生へのアンケート結果から、基盤的能力の向上については他の質問項目に比して肯定的回答がやや少ないが、学生は教育の成果について総じて肯定的に受け止めていることが伺えるとともに、学生の学会発表、受賞が多く研究指導の効果が明らかに認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院修士課程の学生 90%が研究の基礎となる学力や問題解決能力を得た、また、大学院博士課程の学生 95%が最先端の研究能

力と専門知識が身に付いたとしている。さらに、指導力、企画力等、学生はおおむね能力の向上を実感しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院修士課程修了生は企業の研究開発部門へ就職する者が多く研究開発能力を評価されているものと理解される。大学院博士課程の修了生の企業への就職率はおおむね良好なものとなっており、就職率も良好な状況にあるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、学生のアンケート結果から相応の成果が上がっていることが伺えるとともに、産業界、外部有識者から研究能力、技術力が高い評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。